All Rikkyo Tennis

セントポールテニスクラブ会報

発行所
セントポールテニスクラブ
発行人　梅田憲司
原田　豊

祝　女子１部昇格、男子無念の４部

女子部１部昇格なる

本年度のリーグ戦において、女子部は２部リーグ４勝１敗で優勝し、４月29日、１部最下位の早稲田大学との入替戦に臨んだ。

当日の東伏見早大コートには多数の応援が駆けつけた。声援に応えるべくダブルスNo.１とNo.２がコートに入り、畠中・岩本組は１セット目を落としたものの巻き返して２セットを連取し、まず１勝をあげた。一方の増田・山崎組は惜しくも敗れ、ポイント１対１となり午後のシングルス５本を迎えることとなった。

シングルスは、まず増田、平原、稲垣が出場し、平原と稲垣は１年生ながら相手を圧倒し、増田を含めて３マッチを連取し畠中と岩本の試合を待たずして１部昇格を決定した。

女子部は平成７年の４部リーグ優勝をスタートに、４年連続のリーグ優勝と入替戦を勝利しての昇格という夢のような快挙を成し遂げた。

リーグ戦を通して全員の精神的支えとなったのが、「１部昇格」の文字が大きく書かれた旗である。部員一人一人の目標が書き込まれたこの旗は、全員が一体となった証であるのだ。

これは広瀬監督のアイデアであり、試合中苦しい状況に陥った選手は何度も励まされたようである。旗はノンレギュラーの部員が主体的に作った。レギュラーとノンレギュラーが一体となり、個々が自分の持場を持っていたのだ。それが、４年連続の昇格、特に今回の１部昇格を成し遂げた秘訣である。

また、４年生の主将畠中と主務の仕事をしながら選手として活躍した岩本の二人は、１年生の時から４年連続リーグ戦に出場し、１部リーグまでの連続昇格に大きな貢献を果たした。この功績は賞賛に値するものである。

来春、初の１部リーグでの戦いが今から待ち遠しいが、畠中、岩本が抜けても、広瀬監督を始めとするコーチ陣の指導の下、下級生の成長が期待でき、今後もこの躍進が続くであろう。

一方、男子部は３部リーグ１勝４敗の５位、４部リーグ２位千葉商大との入替戦となり、２対７で敗退し、残念ながら４部降格となった。主将高田と主務大野は、たった二人の４年生として、部を支え頑張ってきた。結果は彼らに非常に厳しいものとなったが、二人の努力と情熱は、今後の下級生への模範となるものであった。

本年は男女明暗を分けたリーグ戦であったが、日々練習に励み、来期も悔いの無いリーグ戦を戦って欲しいものである。

一部昇格おめでとう

テニス部部長　栗原　謙二

立教大学では、この四月から武蔵野新座キャンパスに、観光学部とコミュニティ福祉学部が開設されました。丁度その時に合わせて、テニス部女子が関東大学テニスリーグ戦２部で優勝し、早大との入れ替戦の結果１部昇格になりました。１部リーグ戦での活躍は長年の目標の一つだったと思います。ぜひともこれから１部リーグで活躍してほしいと願っています。テニス部の男子と女子がOB・OG会と共に合併し３年目にしてこのような大きな成果が得られたことは、たいへん喜ばしい事で、セントポールテニスクラブの皆様に深く感謝致しております。

従来から行われていました自由選抜入試につきましては、新学部の観光学部が15名、コミュニティ福祉学部が10名募集することになり、理学部は35名に増員されました。法学部の募集人員10名を加えますと全学で70名の募集人員になり、今までよりは入学しやすい状況になったと考えております。

10年度リーグ戦を振り返って

男子監督　鷲田　典之

今年のリーグ戦は、戦前から苦しい戦いになるだろうと覚悟はしていました。それは、昨年迄３年間に渡りリーグ戦の中心として活躍してきたメンバーが卒業し、ほとんどの者がリーグ戦初出場で、全員無資格という中での戦いになるからでした。蓋をあけてみると、やはりリーグ戦の経験不足、並びに試合そのものの経験不足が随所に出てしまいました。勝てる試合を接戦で落とす。ストレートで勝てる試合をファイナルセット迄もつれ込んでしまったり、負けてしまったりする。雨あがりの人工芝コートで振り遅れてしまってまともな試合ができない等、多々ありました。当然、予測はしており、それなりに準備はしてきたつもりでしたが、４部へ降格という最悪の結果となってしまいました。応援して頂いたOBの方々には大変申し訳なく誌面をお借りしてお詫び申しあげます。来年は、この悔しさと経験を生かし、３部復帰できるよう全員一丸となって頑張りますので、今後共御支援御鞭撻を宜しくお願い申しあげます。

監督報告

女子監督　広瀬　省蔵

今年は、春のリーグ戦において、二部で、四勝一敗で、二部優勝をはたし、入替戦において、早大に勝ち、一部昇格を、はたすことが出来ました。監督を末藤氏から引き受け、約十五年、感無量の思いです。これも、選手の努力、特にキャプテン、畠中、岩本の四年生と三年生以下の選手、新一年生の活躍、新旧一体となって戦った、全部員参加のリーグ戦であった結果であり、またOB、OGの方々の、応援、援助があってのことと、思います。個人戦においても、関東学生、インカレ出場を多くはたし、色々な選手と、戦うことが出き、非常に勉強になったと思います。今年は一部昇格という、大きな目標があり、旗まで作って、一致団結したことが、大きな力になったことと思いますが、来年度は一部の中で、どういう目標を設定し、どのように戦って行くか、選手達は各々、クリアーしたものをベースに、もう一段上の課題をもち、より具体的な戦略を立てて行くこと、ムードだけでは、勝つ事が出来ないしレベルになっていることを、自覚しなければなりません、今後、上級生は増々リーダーシップを発揮し、勝利に向けて邁進してもらいたいと思います。またOB、OGの方々には、お忙しいとは思いますが、練習、合宿、試合等観ていただき、士気をもり上げていただきたいと思います。私も含めて、コーチ、現役、一生懸命、頑張りますので、御支援のほど、よろしく、お願い致します。

第3回総会開かれる

去る6月6日（土）、セントポールテニスクラブ第3回総会が、OB四五名OG三五名のご出席をいただき、立教通り「白雲閣」にて開催されました。

会計報告、役員改選など慎重な審議がおこなわれ、新会長・山中博司氏（S三六年卒）、新理事長・浅見豊氏（S四九年卒）を始めとする新役員が選任され新体制での運営のスタートが切られました。

総会終了後は懇親会及び女子部1部昇格のお祝いパーティが盛大に執り行われました。

以下に総会の決定事項をご報告いたします。

セントポールテニスクラブ 平成9年度決算報告書

（自 平成9年4月1日 ～ 至 平成10年3月31日）

収入の部

科　目	予算額	決算額	摘　要
1. 年会費	3,000,000	2,387,000	10,000×196　7,000×61
2. 総会 納会会費収入	700,000	589,000	総会 納会出席者会費
3. 雑収入	600,000	304,065	三町氏 OG有志 他寄付金
当期収入合計	4,300,000	3,280,065	
前期より繰越金	1,337,917	1,337,917	
収入合計	5,637,917	4,617,982	

支出の部

科　目	予算額	決算額	摘　要
1. 現役強化費	1,700,000	1,839,338	
①ボール代	(500,000)	(458,930)	男子部282,530女子部176,400
②合宿援助	(700,000)	(700,000)	男子部400,000女子部300,000
③コート維持費	(100,000)	(97,440)	砂代
④勧誘費	(300,000)	(281,488)	インターハイ視察等
⑤その他	(100,000)	(301,480)	ガット張機 他
2. 総会・納会費	1,000,000	738,100	総会 納会費用
3. 通信費	500,000	253,610	案内通知 切手 ﾊｶﾞｷ代
4. 名簿・ART作成費	600,000	165,000	ART作成費
5. 諸会費	86,000	54,000	OBクラブ分担金等
6. 交通費	100,000	2,680	現役マネージャー
7. 雑費	200,000	72,849	コピー代 封筒代 文具代等
8. 手数料	50,000	50,870	自動振替手数料 振込料
9. 予備費	200,000	46,750	慶弔費
当期支出合計	4,436,000	3,223,197	
次年度繰越金	1,201,917	1,394,785	

セントポールテニスクラブ平成10年度会計予算

（自 平成10年4月1日 ～ 至 平成11年3月31日）

収入の部

科　目	予算額	摘　要
1. 年会費	3,000,000	10,000×230　7,000×100
2. 総会 納会 会費収入	1,000,000	総会 納会 激励会出席者会費
3. 雑収入	400,000	寄付金 広告費 受取利息等
当期収入合計	4,400,000	
前期より繰越金	1,394,785	
収入合計	5,794,785	

支出の部

科　目	予算額	摘　要
1. 現役強化費	1,750,000	
①ボール代	(500,000)	男子部 300,000　女子部 200,000
②合宿援助	(700,000)	男子部 400,000　女子部 300,000
③コート維持費	(100,000)	砂代他
④勧誘費	(300,000)	インターハイ視察等
⑤その他	(150,000)	立教高校コーチ交通費等
2. 会合費	1,200,000	総会 納会 激励会費
3. 通信費	500,000	案内通知 名簿発送費等
4. 名簿 ART作成費	600,000	名簿 400,000　ART 200,000
5. 諸会費	86,000	OBクラブ 監督部長会 合同練習会等
6. 交通費	30,000	現役マネージャー交通費
7. 雑費	200,000	コピー代 封筒代 文具代等
8. 手数料	50,000	年会費自動振替手数料 振込料
9. 積立金	200,000	コート付帯設備準備金
10.予備費	200,000	その他不足分補助 慶弔費
当期支出合計	4,816,000	
次年度繰越金	978,785	

平成10年度事業計画書

6月　6日	第3回総会並びに女子部1部昇格祝い
6月	第1回強化委員会
7月	第1回理事会
8月	第2回強化委員会
8月	インターハイ選手勧誘視察
9月	第3回強化委員会
11月	第2回理事会
11月23日	小・中・高・大 合同練習会
12月　6日	納会
3月	第3回理事会
3月	リーグ戦激励会

平成 10年度 役員　（任期2年）

	氏　名	卒年		
会　長	山中博司	36		新任
副会長	森　恵	31		
〃	野田昌子	36		
〃	小西一三	37		新任
〃	松平紀代	38		新任
顧　問	田中能穂	15		
	栗原謙二		テニス部 部長	
	舟田正之		〃　副部長	
理事長	浅見　豊	49		新任
副理事長	林田千史	43	総務	
〃	梅田憲司	50	総務	
理　事	広瀬省蔵	40	女子部 監督	
〃	川上浩子	40		
〃	出口誠之	42		
〃	原田正明	42	強化本部長	新任
〃	倉光　哲	42		新任
〃	佐藤俊彦	43		新任
〃	中島幸彦	50	強化委員長	新任
〃	吉川裕子	52		新任
〃	鷲田典之	53	男子部 監督	
〃	秋元英晴	54	会計	
〃	原田　豊	54	副総務	新任
〃	坂井裕美	57	会計	
〃	伊藤久幸	57	副会計	新任
監　事	立花雍一	32		
〃	八木下紗絵子	36		新任
コーチ	藤井孝信	59	男子部	
〃	山田　昇	H2	〃	
〃	村木祐介	H10	〃	新任
〃	鈴木康正	54	女子部	
〃	大塚直人	55	〃	
〃	松村隆司	55	〃	
〃	庄野俊夫	58	〃	

新会長挨拶

（S36年卒）山中　博司

今期岸本先輩から会長を引継ぎました三十六年卒業の山中です。我期は一部（当時は四校）で入学しましたがすぐ二部に転落しました。最終年度一部二位の成績で卒業出来ました。めぐまれた部生活でした。又早大に初めて勝った年でもあります。今年女子が早大に勝って一部に昇格しましたこれほどうれしいことはありません。運の強い人間だと自分を考えます。

還暦を迎える年になり当時の各大学のテニス部の同志（北は北大から南は九大まで）が七十名位集まり昔の話に一夜を過しました。立大からは七名参加しました。その席で早大・法政に勝った話を皆の前でしました。両校の人達は大変くやしい思いを顔にまで出していました。一生彼等にはいばれる、大変な優越感にしたったわけです。

現在男子現役は下位に低迷しています。こんな時こそOB会の皆様暖かい目で見てやって下さい。絶大なる御支援と御指導を賜りますようお願いします。女子はもう後を振り向かず一路王座をめざして邁進して下さい。現役諸君には悔いのない学生生活、部活動を送られと同時に素晴しい思い出をつくられますよう望みます。

新理事長挨拶

（S49年卒）浅見　豊

本年6月の総会で「セントポールテニスクラブ」豊田理事長の後任として選任いただきました49年卒業の浅見でございます。

本年のリーグ戦では、女子が4年連続の昇格で、念願の1部昇格を果たし王座獲得への道を歩み始めました。男子は4部降格という大変残念な結果となりましたが、今年のレギュラー全員が残る来年のリーグ戦ではこの悔しさを必ずや晴らしてくれるものと確信しております。新1年生も、男子10名、女子4名を迎え、広瀬監督、鷲田監督の良きご指導を得て将来に向けての活躍を大いに嘱望されております。過去5年間委員長を務めました強化委員会も、中島新委員長を中心に多数のOB、OGのご参加をいただき、リニューアルした強化委員会となる模様で大変期待しています。

当クラブの今後益々の充実、発展を計るべく理事会を定期的に開催し、種々ご意見を拝聴して行く所存でございますので、今後共OB・OGの皆様方の尚一層のご支援を賜り度く、お願い申し上げます。

新強化委員長に就任して

（S50卒）中島　幸彦

今世紀を締め括る最後の2年間を、原田正明強化本部長（42卒）のもと男子部より11名、女子部より9名総勢20名の卒業生の方に強化委員としての協力を仰ぎ「新強化委員会」がスタート致しました。

(1)コーチ部（男子部・女子部）の応援・支援を行う。(2)若手OBの育成と発掘を行う。(3)「集まり」を楽しむ。という「基本方針」のもと20代、30代のメンバーを中心に構成されておりますが、何分にも一番忙しく「テニス部」なんかに構っちゃいられない世代の登場です。先輩諸氏からの暖かいご理解、同期後輩からは励ましの言葉と行動を頂くことが何よりの支えとなることと思いますので何卒よろしくお願い致します。

「伝統とは革新の連続である」という言葉がありますが、「変化」を恐れず真剣に全力で一石を投じてみたいと思っております。「中島！お前なぁ……」浅見さん（理事長）からのお説教が目に浮かんできます。「ハイ！……スイマセン」どうもこの縮図は一生変わらない様です。

平成10年度 関東大学テニスリーグ リーグ戦結果

男子　平成10年度　　３部リーグ戦結果

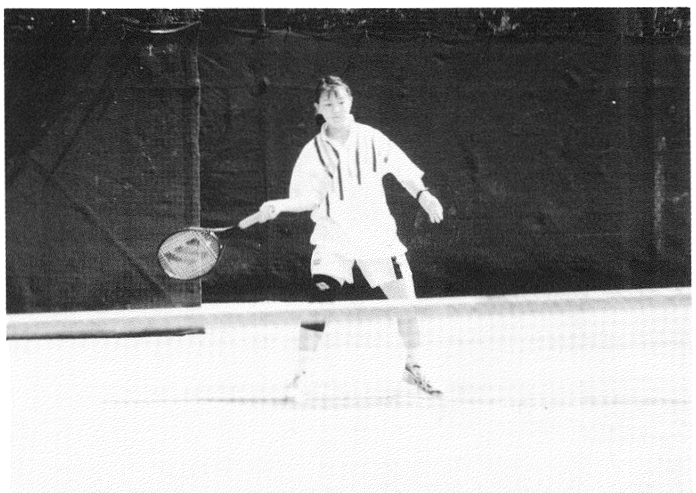
	上智	上武	立教	帝京	日体大	明海	勝点	ﾎﾟｲﾝﾄ	失ｾｯﾄ	順位
上智大学		１－８	１－８	１－８	１－８	１－８	0	5	83	6
上武大学	８－１		７－２	６－３	５－４	８－１	5	34	32	1
立教大学	８－１	２－７		２－７	４－５	０－９	1	16	64	5
帝京大学	８－１	３－６	７－２		７－２	６－３	4	31	33	2
日本体育大学	８－１	４－５	５－４	２－７		３－６	2	22	49	4
明海大学	８－１	１－８	１－８	３－６	６－３		3	27	40	3

3部 4部入替戦　　立教大学　×　　２ － ７　4部降格　　千葉商大　○

女子　平成10年度　　２部リーグ戦結果

	日大	東海	日体大	東女体	日女体	立教	勝点	ﾎﾟｲﾝﾄ	失ｾｯﾄ	順位
日本大学		３－４	６－１	７－０	３－４	２－５	2	21	34	4
東海大学	４－３		３－４	５－２	４－３	２－５	3	18	38	3
日本体育大学	１－６	４－３		６－１	４－３	４－３	4	19	35	2
東京女子体育大学	０－７	２－５	１－６		３－４	１－６	0	7	60	6
日本女子体育大学	４－３	３－４	３－４	４－３		１－６	2	15	43	5
立教大学	５－２	５－２	３－４	６－１	６－１		4	25	30	1

1部 2部入替戦　　立教大学　○　　５ － ２　1部昇格　　早稲田大学　×



リーグ戦を振り返って

男子主将　髙田　健太郎

四月二十九日入替戦の日、私はいつものように仲間と頑張ろうと言い聞かせて家を出た。自分達がやってきたことを信じてやるしかないと思った。明立、秋季リーグなどでの勝利がそうさせたのかもしれない。

しかし私達は勝てなかった。私がベンチコーチに入ったコートで、入部のラケットが空を切った瞬間に勝利の可能性がなくなった。その時私はベンチに座っていることしかできなかった。阿部さん達で勝ちとり、村木さん達が残してくれた三部の座を守ることもできなかった。様々な過去が思い出された。仲間を怒ったこと。仲間で喜びを分かち合えたこと。自分のためにがんばると言ってくれた後輩、自分が苦しくて涙したこと。ただ泣くしかなかった。

私はこの瞬間を一生忘れないでしょう。納得できないでしょう。しかし後悔はしていません。まわりに何を言われようが練習で答えを出そうとする仲間がいた。「みんなでがんばるんだ」という言葉にプレーヤーでなくても責任を持ち必死になっている仲間がいた。結果は出なかったが私はチームを誇れた。全員がひとつの勝利に必死になっている姿を私は忘れないでしょう。

私は結果では後輩に何も残してあげられませんでした。しかしみんなで頑張ることの大切さは伝えてきました。一人一人が責任を果たした時に真の喜び、悲しみがあること。その喜び、悲しみが自分を成長させてくれること。そしてそれが仲間に影響を与え、大きな力になること。

私は信じています。後輩達が真の喜びを結果とともに勝ち取ることを。自分が真の喜びを分かち合えることを。

最後になりましたが、技術だけでなく様々なことを教えていただいた鷲田監督、藤井・山田両コーチ、本当にありがとうございました。豊田前理事長、浅見理事長、中島さん、梅田さん、秋元さんをはじめとしたＯＢ、ＯＧの皆様、皆様の支えで私達はテニスに集中できました。ありがとうございました。そしてこんな主将を支えてくれた後輩、村木さん達そしていつも助けてくれた大野、本当にありがとうございました。

リーグ戦を終えて

女子主将　畠中　暁子

「一部」、それは私にとって、遠くに存在する夢だった。その夢が私の大学四年間最後に現実となり得るチャンスがやってきた。

立教テニス部に入り、まず感じたことは、チームとして強くなろう、皆で頑張っていこうとする輪があることだった。今まで自分のレベルばかりをみてテニスをしてきた私に、何か違う志を感じた。そして、一人一人が強い影響力を持ち、本当に必要とされているこの部で、「一部」という夢に向かって自分を賭けてみたいと思うようになった。

五部にいた当初は遠かった夢を、最後のリーグ戦で目の前にした時、私は、怪我で肉体的な不安を抱えていた。しかし、コートに立つといつもチーム皆の強い力をうけて、不安を自信に変えることができた。十一人という少部員数にも拘らず、チームの信念や、応援で負けた試合は一つもなかったように思う。

リーグ戦を通して、改めて私達テニス部を取り巻く周りの支えの大切さ、素晴らしさを実感した。こんなにも一人一人を必要とし、信じ合える場はないように思う。人から必要とされ、自分の頑張りが結果的に皆の喜びになったこの経験は、一生の財産になるだろう。また、遠かった夢を見失いそうになっても、いつも一緒に頑張り続けてくれた岩本、幹部二人で弱根をはきそうな時、同じ二人で頑張っている高田と大野には、よく勇気づけてもらい、本当に感謝している。いつもファイト溢れるプレーや、言葉で元気をくれた下級生のパワーは、リーグ戦では一番光っていた。そのパワーを武器に、今度は一部の場で堂々とぶつかって、更なる目標に向かってほしい。

最後になりましたが、どんな時でも私達を前向きな方向に導いて下さった広瀬監督をはじめコーチの方々、先生又、数多くの先輩方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

貴重な体験

男子主務　大野　潤三

思いおこせば、二年前の春、自分は初めて、大学のリーグ戦を見た。そこには、必死の形相で戦う先輩達の姿があった。そして、気付いた時には、自分も応援の輪の中で大声を張り上げていた。

あれから二年が過ぎ、最後のリーグ戦を迎えるにあたり、正直言って、自分には、リーグ戦のつらい面しか見えてこなかった。様々な重圧や、戦力低下の不安、そして、最後に選手としてコートに立てない苛立ち。一所懸命取り組んできたつもりでも、振り返ると、後悔する事は幾つもあった。

最も強く心に残っているのは、入替戦を賭けた、日本体育大学との試合であった。ベンチコーチとして入った真田の試合では、勝ちに対する執念を、二年生ながらエースとして勝ち星を挙げた入部には、冷静にプレーする大切さを、そして、関東学生を相手にしながらも、最後まで喰らいついていった井口には、あきらめない姿勢を、教わったような気がした。必死の形相で応援する高田や藤井、中村達の輪の中で、自分も声にならない声を張り上げた。それは正に、二年前初めて経験した、あの異様な興奮そのものだった。

しかし、結果は４－５。あんなに悔しい思いは、もうしたくない。自分は、一生あの試合を忘れないだろう。

最後の一年間、自分は主務として、多くのＯＢの方々と接してきた。ＯＢの方々の期待を、最も強く肌で感じてきた分、今年度の結果に、強い責任を感じている。しかし、ＯＢの方々を初め、すぐ上の先輩方や、同輩、そして後輩達との深い結び付きがあったからこそ、一生心に残るような、貴重な体験ができたのではないだろうか。

この短いテニス部生活において、自分に関わった全ての人々に、素直に、心から感謝を述べたい。

四年間のリーグの思い出

女子主務　岩本　美幸

四年連続優勝、昇格は私の夢であり、目標でもありました。

五部の時に入部した私は、他大学の先輩や友人に「四年間でちょうど一部までいけるね。」とよく言われました。リーグの厳しさを理解していなかった私は、「そうか、一部か。」と軽く考えていました。

とにかくわけが解らず、ただ負けてはいけないという気持だけが強かった五部リーグ。昇格した時の先輩方の喜びや涙に感動し、四年連続昇格の想いは自分の中で明確な目標となりました。初めての後輩を迎かえての四部リーグでは、先輩というプレッシャーをかなり感じました。ずっと二人で部活を支えて下さった吉田先輩と星野先輩のために戦いたい、昇格したいという気持ちで望んだ三部リーグ。入替え戦で全勝した時の感動は今でもはっきりと覚えています。そして、私にとって最後の年である二部リーグは、今までとは違いとても苦しい戦いでした。初めての負けを味わい、悔しさと焦りでいっぱいだった私は動揺を隠しきれず、涙を見せることも多かったように思います。そんな私を最後まで笑顔で支えてくれた後輩達、辛い時も苦しい時もいつも側にいてくれた畠中、熱心に指導して下さった広瀬監督、コーチの方々、相談にのって下さったＯＢ・ＯＧの方々、舟田先生、栗原先生には本当に感謝しています。こんなすばらしい仲間に囲まれて四年間テニスができたことを本当に幸せに思います。そして何より夢を実現できたことを誇りに思うと共に嬉しく思います。今まで私を支えて下さった全ての人にお礼を言いたいです。本当に最高のテニス部生活でした。

TENNIS

新幹部挨拶

新主将　真田　康志

今年度主将を務めさせて頂くことになりました。社会学部社会学科三年、真田康志です。宜しく御願い致します。

四月の入れ替え戦では、多くのＯＢの方々に富士見まで足を運んで頂き、本当にありがとうございました。にもかかわらず四部降格という無様な結果に終わってしまったことは、情けなくて何も申し上げることができません。リーグ戦での勝つことの喜び、負けた時の悔しさ、そして何がおきるかわからない独特の緊張感、わずか一ケ月でたくさんの事を経験しましたが、何よりも私が痛感したのは、ＯＢの方々が、長い間、苦労の末に守りぬいてきた三部という地位をたった一年で落としてしまったという恐しさです。この悔しさを決して忘れず、後輩に伝え、そして三部に返り咲くことが私達幹部の役目だと思います。

今年度は、他の大学の主力メンバーが抜ける中、本学は全員そのまま残っており、新入部員は十人を数えます。総勢二十人の新チームが「三部昇格」する為に一番必要なこと、それは部活の雰囲気作りであると私は考えました。この練習をすれば昇格できる、こんな簡単なミスをしたら試合で勝てない、ということを一人一人が理解し、緊張感のある部活を作り上げていきたいのです。その為には、身近な目標を設定し、それを達成する為の具体的な練習を明確化することが要求されます。

また近年、大学の授業カリキュラムの変革にあたり、以前ほど自由に練習することが困難になってきました。ボールを打つ時間は確実に少なくなっているので、一日一日、一球一球を大事にし、短時間で上達する為の正しい努力を心掛けていきます。

私達幹部にとって昨年の雪辱を期すチャンスはあと一回だけです。鷲田監督、藤井、山田、村木コーチの御指導のもと結果にこだわって頑張っていきたい、そう思っています。

新主将　尾又　明日香

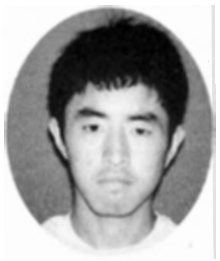
本年度主将を務めさせて頂くことになりました、法学部、法学科3年の尾又明日香です。

昨年度は、女子部初の一部昇格を果たし、私達にとって忘れる事のないリーグ戦となりました。混戦は予想していたものの第二戦で、対抗戦では一度も負けた事のない日体大に負けてしまい、一時はチーム全体が落ち込みました。しかし、それが良い刺激となり、残る三戦は全勝し、一部入れ替えも五対一で勝ち、目標であった「一部昇格」を達成する事が出来ました。

今年は実力のある一年生が四名加わり、総勢十二名のチームであります。個人戦でも去年より好成績を残す事ができ、現在シングルでは、インカレ資格1名、関東学生4名、ダブルスでは、2ペアがインカレ資格であります。しかし他の一部校では部員数が多い上に、そのほとんどが、資格を持っているなど、チーム全体としてのレベルを比べるとまだまだ差を感じます。

これからの課題として、これらの差を埋めるためにも、同部校との対抗戦や、練習試合を行い、自分達より実力のある者に勝つためにはどうすれば良いか、また、自分に足りない事は何であるかを個人個人が自己分析し、練習に取り組んでいこうと思います。

今年のリーグは、初めての一部での戦いとなるわけですが、王座を目指して、一戦一戦力を出し切って、勝利していきたいと思います。今後とも、御支援御鞭撻の程よろしくお願い致します。



新主務　斎藤　征爾

本年度主務を務めさせていただくことになりました社会学部社会学科三年斎藤征爾です。宜しく御願いいたします。

何か目標を達成しようと努力するということはそのために今何が足りなくて何が必要なのかということを正確に分析・判断し、それを補ったり身に付けるために行動を起すことだと私は思います。私はこのことをテニスにも当てはめて練習に取り組んでいます。しかし、今のテニス部員全員が正確な自己分析ができているわけではありません。今の自分・部に足りないもの（技術的にも精神的にも）を認識して（認識させて）正しい練習をし、全員の考えが部活という枠の中で同じ方向に向いたときに部の目標である三部昇格と個人の目標が達成できると思います。さらに自分が勝たなければチームは勝てないというような高い意識を全員が持つことも必要だと思います。

昨年度のリーグ戦はリーグ戦経験者が真田と和田の二名しかおらず、戦力的にも精神的にも不安を抱えながら試合に臨む状態でした。しかし、今年は戦力がほぼ変わらない状況であり、昨年よりも十分力を発揮できると思います。自分やチームに自信が持てないままリーグ戦が始まると良い結果が望めません。四月のリーグ戦までに絶対に勝てる、絶対に昇格できると言えるように日々の練習に取り組みチーム全体の志気を高めていきたいと思います。

私は主務という役職を任されましたがその役割を十分に果たしながらも来年のリーグ戦では全勝してチームの昇格に貢献し、またＯＢの方々の期待にも応えたいと思います。今後も御指導御鞭撻のほど宜しく御願いいたします。

新主務　吉田　真理子

本年度、主務を務めさせて頂くことになりました、文学部英米文学科三年の吉田真理子です。宜しくお願い致します。

昨年度は、部員が一丸となって厳しい戦いを勝ち抜き、全員の目標であった一部昇格を果たすことができました。今年は、いよいよ念願の一部でプレーすることとなります。嬉しく、誇らしく思うと同時に、数多くの不安も抱えています。

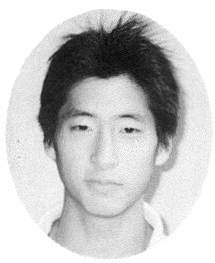
まず第一に、私達は一部未経験のチームであることです。一部では日程や場所、多少のルールが今までと異なりますが、同部校の中で我チームだけ、その経験がありません。また、個人戦において各人が同部校の選手と対戦し、そのレベルの高さを痛感しており、厳しい戦いとなるのは必至であると感じております。

これらの不安に対処するため、強化練中に、リーグ戦の会場となる昭和の森での練習を取り入れたり、合宿を昭和の森で行う等を考えております。また、同部校との対抗戦や練習試合を多く取り入れ、自己と相手の分析を行い、格上の相手にどのようにしたら勝っていけるのかを課題に練習していきたいと思っております。

今年は、部員総勢十二名と、昨年同様少人数のチームでありまずか、個人個人がチームの一員としての意識を高め、五人の有資格者はもちろん、それ以外の部員からの底上げによる全体のレベルアップも図っていかなければならないと感じております。

厳しい戦いになるとは思いますが、気持ちでは負けぬように、立教の名に恥じぬ堂々としたプレーで上位を狙っていけるよう頑張ります。今後とも皆様の御支援、御指導の程宜しくお願い致します。

新入生紹介



社会学部　産業関係学科
一年　山内　寛人

僕はサークルとも悩んだ末、強くなるためにテニス部に入部することを決めました。

いざ入部してみると、高校の部活と比べその内容の濃さ、部員、特に三年生のテニスに対する真剣さに驚かされました。その雰囲気は下級生にも良い影響を与え、僕の理想とする部活に近く、誇りに思います。僕もこの部をさらに良くするために微力を注ぎたいと思います。

僕は兄を超えることを一つの目標としています。そのために最終的には意地でもインカレを取りたいです。三年間でこれを達成することは決して簡単なことではありません。しかしその重みと難しさを忘れずに最後まで信じて努力すれば絶対に届く目標でもあると思います。

三部に上がり、二部に挑戦するためにも資格を持つ者が複数名必要です。このように考えている一年生は他にもおり、そういう者と互いに良い影響を与え、絶対に強くなりたいです。

よろしくお願い致します。

法学部法学科
一年　松井　英樹

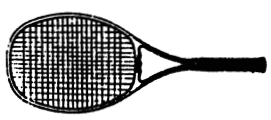
僕が通っていた中学校では、生徒は必ずどこかしらの部活に所属していなくてはならず、そこで僕は何気無く軟式テニス部に入部しました。その年の新一年生は経験者ばかりで、僕はとても不安でしたが、精一杯練習に励みました。その努力の成果は如実に表れ、僕は充実した三年間を過ごすことができ、テニスをすることができて本当に良かったと思いました。でも思えばその時からすでに僕は硬式テニスにあこがれていました。

一面しかないコートに三十人がひしめく高校の硬式テニス部に入部することをあきらめ、三年間をバンド活動に費やした後、立教大学に入学しました。入学当初、テニスのことなど完全に忘れていた僕でしたが、大学生活を実りある充実したものにしたいという思いがあったので、体育会に入ろうと考え、そうすると入りたいと思える部は一つしかありませんでした。

「今更無謀だ」と友人から言われたり、「下手くそ」と仲間から言われても、彼らを見返すべく、後悔の残らないように頑張っていこうと思うので、これからもよろしくお願いします。

法学部国際比較法学科
一年　前田　尚志

僕がテニスを始めたのは小学校三年の頃、両親に勧められたのがきっかけでした。以来テニスを続けているわけですが、週一日にテニススクールに通う日々が続きあまり進歩することなく中学、高校、そして大学までできてしまいました。立教入学当初はサークルに入ってテニスをしていましたが僕の求めているものとは違い、かなり迷った末、不安を残しながらも体育会テニス部に入部しました。入部してからはコート整備や経験したことのなかったほどの練習量にとまどいましたが、かつて味わったことのない充実感を得る喜びを同時に学び、なんとか日々努力を続けています。特にメンタル的な面で多くの不安を抱えていますが、部活動で得られる貴重な経験を少しずつ培っていき、人間的に成長していくことを目標として精進していこうと思っています。

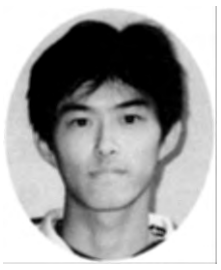


法学部国際比較法学科
一年　猫橋　拓郎

法学部国際比較法学科一年、私立立教高校出身、猫橋拓郎です。よろしくお願い致します。まず私が体育会テニス部に入部した理由について言いたいと思います。第一に、大学四年間を何か一つのことをやり通し、有意義なものにしたい、ということです。第二に、私は高校でもテニス部に入っていて、そのときにレギュラーになることができなかったので大学では選手として団体戦に出て活躍したい、という気持ちがあるからです。

私の現在のテニスの目標は、インカレや関東学生の資格を取ることと、春のリーグ戦で選手として出場して、なんとしても立教を四部から三部に昇格させることです。リーグに関しては私たちが四年生になったときにうまくいけば一部昇格することができるので絶対に勝っていきたいと思います。以上の目標を達成するために、みんなと一緒に四年間がんばっていきたいと思います。

経済学部経営学科
一年　中山　陽平



僕が立教大学体育会テニス部に入ろうと思ったのは、とにかくテニスを思いっきりやりたかったからです。

部活に入りたてのころは、部活の雰囲気がすごくて驚きましたが、今では十分慣れてがんばっています。

大学のテニスのレベルは、とても高くて、僕では全く歯が立たないことが思い知らされ、これから「がんばるぞ」という気持ちが、強まっています。そしてなるべく早く関東学生になり、リーグ戦に出ても、十分に戦える選手になりたいです。そのためにも日々の練習を大事に、少しずつでも上達していきたいと思います。

これから、恐らく辛いこともたくさんあると思いますが、負けずにがんばっていきたいです。

コミュニティ福祉学部
コミュニティ福祉学科
一年　豊住　浩史

今まで続けてきたテニスで何か一つ残せたらと思い、この体育会テニス部に入部しました。

私は小学五年生のとき、両親の勧めでテニスを始めましたが毎日するのではなく、週一回程度で遊び感覚でやっていました。しかし、中学校に入り、自分からテニスをしたいと思うようになり、強くなれるよう続けました。高校ではテニス部がありましたが、コートが少なく、部員も多かったため、充分にテニスができませんでした。今までしたいだけテニスができなかったので、大学では本格的にやりたかったのです。

何か一つ残すというのは、つまり、部の中で一際目立った存在でありたいのです。それは関東学生、インカレなど強くなるのもそうですが、それ以外の面でも自分の存在を出したいのです。

すでに半年が経ちました。あと三年、まずはレギュラーを目指してがんばっていきたいと思います。宜しくお願いします。

法学部国際比較法学科
一年　冨張　泰正

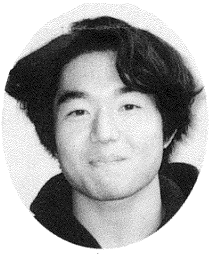
僕が体育会に入ったのはただ単にテニスが上手になりたいからです。確かにサークルでもテニスはできますが、サークルはたくさんあるし、その中も不明なものが多く、選び方を間違えるとただの飲みまたは遊びになってしまいます。それではテニスに打ちこめる雰囲気ではありません。テニスをしっかり練習して充実するのはやはり体育会のテニス部です。練習時間が高校時代よりも長くきつく感じることもありますが一生懸命頑張っています。

とにかく、テニスがまじめにやりたく、サークルのような気合いの抜けた、テニスをしているのかさえも分からない雰囲気ではテニスはうまくなりません。それと比較して体育会はしっかり練習をします。だから、僕はサークルではなく体育会テニス部を選んだのです。

社会学部産業関係学科
一年　富田　祐司

僕は両親の勧めもあり幼少の頃からテニスを始めました。立中テニス部に入部してから徐々に試合にも出場するようになりました。中学校時代は団体戦では全国大会に参加出来ましたが、個人戦では関東大会出場に甘んじその頃から強く個人戦での全国レベルの大会への出場を意識するようになりました。しかし高校時代も特に結果を出せず高二の終わり位から強くインカレ資格を取得したいと考えるようになりました。それが僕の入部の動機でもあります。しかし大学に入学してからの各個人戦や秋期リーグ、対抗戦に参加し自分のテニスの技術、経験そして体力はもちろんのことテニスに対する取り組み方や日常生活においての自分の甘さを痛感しています。大学テニス界で自分が成功することは自分の学生生活の集大成であり全く先の見えない挑戦でもあります。必ず自分はこの挑戦に成功し、立教大学を古豪ではなく強豪と呼ばれるチームに出来ると信じています。まだ一人前と呼ぶには程遠い自分ですが今後ともよろしくお願いします。

経済学部経営学科
一年　戸田　淳



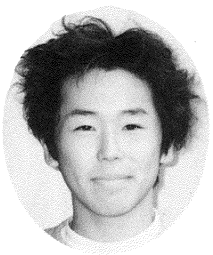
私には夢があります。そして私達一年生にもまだ見ぬ夢があります。

私は大学に入って初めてテニスを始めました。体育会に入り、様々な事を学びました。つらい事、喜び、悲しみ、そして、仲間の思い…。半年間にこれだけ多くを学んだのだからこれから先どれだけを学ぶのか、楽しみでもあり、不安でもあり…。

私がテニスをする理由は、もちろん自分自身のためにというのもありますが、かつての友の夢、仲間の夢、昔のチームメートの夢、いろいろな人の思いや夢を背負っているからです。大げさに聞こえるかもしれませんが、これが私のモチベーションです。

部活をやめようと思ったこと数回です。しかし、なにかと説得され今まで続けています。これからは大切な仲間といっしょに全員で夢をかなえていきたいです。“If you can dream, you can do it.”願えばかなう。

経済学部経営学科
伊藤　孝允



私は、9月より立教大学体育会テニス部に入部しました。それ以前はテニスサークルに所属していました。なぜ私が先にテニスサークルを選んだかというと、サークルの方が時間的に余裕が持て、テニスだけでなく様々なことに可能性を見出せると思ったからです。しかし現実は違いました。ダラダラした生活、そして学校の行き来だけの毎日でした。

今年の入れ替え戦を見に行きました。結果は2－7でした。その時私は、同じ悔しさを共感し涙する先輩や友人を見てとても感動しました。そして私もこの人たちと一緒にがんばっていきたい、様々なことを中途半端で残すよりテニス一本を選ぼうという気持ちで入部しました。

精神面や技術面ではまだまだ未熟ですが、気合と忍耐力では誰にも負けない自信があります。最終目標をインカレにおき頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

法学部国際比較法学科
一年　松井　綾乃

私が立教大学硬式テニス部に入部した理由は、単純に小学生の頃に始めたテニスを続けていきたかったこと、そして思う様に結果が出せなかった高校時代よりも、自分自身が大きくなりたいと思ったことです。私は宮城県出身ですが、宮城県のテニスのレベルは関東に比べ今一歩と言ったところで、そのまま地元の大学に入れば、インカレも王座出場も、多少の努力で実現できたかもしれません。しかしそれでは、悔しい思いをしてきた高校時代と何も変わってこないと思い、一部昇格を狙える位置にいるという立教に入学しました。

そして初めてのリーグ戦。私は、立教のテニス部に入ってよかったと心から思いました。中でも、対東海大のシングルス№1の故障しながらも勝った畠中さんの試合と、一部昇格を決めた時の岩本さんの涙は生涯忘れる事はありません。

他の一年生も全員経験者ですが、気持ちだけは負けずに頑張っていこうと思います。どうぞよろしくお願い致します。

経済学部経済学科
一年　平原　二三子

私には大学に入学するにあたって一つの迷いがありました。それは小学校時代から続けてきたテニスを、大学でも続けるかどうかという事です。そんな時、先輩方から声をかけて頂きました。部活というものをまったく経験してこなかった私には、部活を続けていく自信がありませんでした。しかし、先輩方に励まされ、やってみようと決心することができました。苦しい事も数多くありますが、テニス部に入部して本当に良かったと思います。

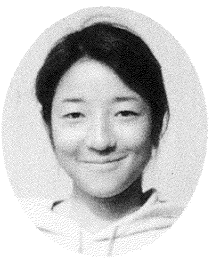
リーグ戦では、一部昇格という素晴らしい結果を先輩方と残す事が出来ました。しかし、個人戦では目標であったインカレに出場出来ず、納得のいく結果を残す事が出来ませんでした。来年こそはインカレに出場出来るよう、日頃の練習を懸命に励んでいきたいと思います。そしてリーグ戦では、一部という厳しい状況ですが、一勝でも多く勝てるよう頑張ろうと思います。

法学部法学科
一年　稲垣　舞

私は法学部法学科1年の稲垣舞です。硬式テニス部に入部した理由は、小学生から続けてきたテニスを一生懸命やれる時は今だけだと思ったことです。また、体育会という組織の下での毎日の練習で先輩や同輩から自分にはないものをたくさん吸収したいと思っています。

私は今春のリーグ戦に参加させていただき、大学でやっていくことの大変さが身にしみましたが、それ以上にチームが団結し、一部昇格という瞬間を味わえたことは私にとってとても大きいと感じています。先輩方の試合に対する眼差しは、私には足りなかったもので、特に見習うべきものだと思います。これから、試合はたくさんありますが、一つ一つに対して、勝つという気持ちをしっかり持ってやっていきたいです。また、先輩方が築き上げてきたものを守り、吸収して自分を高めていきたいと思います。今年からは一部ということで決して簡単な道のりではないとは思いますが、全力を尽くしてがんばりたいと思います。

観光学部観光学科
一年　山野　潤子



観光学部観光学科一年、山野潤子です。

私が立教大学を志望した理由は、自分の将来に向けて勉強していきたいという思いと同じに高校まで続けてきたテニスに自分自身が納得出来ず、もっと向上していこうと思ったからです。

私は高校三年間テニス部に所属していながらも部活ではなくテニスクラブで練習していたので、現在部活を経験し、皆でお互いに切磋琢磨し合って強くなろうという環境がとても素晴らしいと思っています。

本年の私の目標は、一部校でプレーが出来るということに誇りを持って、テニスに取り組むということです。先日の合宿でもOGの方がおっしゃっていたように、個人の向上が団体の力になるということを常に考えていきたいです。具体的にはサービス・リターンの強化とストロークを少しずつ改善し、来年の春にはシングルス・ダブルス共に、インカレを狙っていきたいと思っていますので、御指導を宜しくお願い致します。

ＯＢ・ＯＧの声

輝けセントポール テニスクラブ

（Ｓ31年卒）森　恵

掲載欄は〝ＯＢ・ＯＧの声〟との事ですので言葉を、そのまま執筆します。毎度の事ですが若干の失言はお許し下さるよう冒頭にお願いします。

さて先日郵送いただいた〝テニス部11月予定表〟を見ると月末30日の同立戦を最後にＯＦＦとの事、年のせいか、１年が早く感じます。

春には１・２度リーグ戦入替戦の応援に行き、監督・コーチ・現役と頑張ってる姿に、結果はともかく感激させられました。無論勝たせてあげたかった。そんな折に女子部１部昇格の朗報!!我がセントポールテニスクラブ（以後ＳＴＣに省略）にも一筋の明光がさした、おめでとうございます。　おかげで女子の１部、男子の４部、加えて割れば２・５部、２・０部の実現も夢ばかりではなくなりました。負けるより勝つ方が良い程度の気分でより多くのＯＢが応援に行くようにしては……。又ＯＧの皆様も１部のテニスばかり見てないで、たまには……。参考になりますよ。

それから、ＳＴＣの最大イベント、総会&納会とありますが、ＯＢ、ＯＧの出席率に不満があります。具体案ではありませんが１、２提案します。

１番簡単な事は女子に揃って男子も１部に昇格すれば、現在よりはアップすると思いますが近い将来では実現不可能。

２番目は先ず総会、納会のネーミングが俗受けしない、総会は季節を考慮して〝ＳＴＣビアパーティ〟とか、納会は○年度忘年会、あるいは〝ＳＴＣ望年ワインパーティ〟ぐらいにして中断２・30分で総会、納会の決定、報告他事項を手短かに消化する……どんなものか。

ＳＴＣ会員自身、もっと楽しめるよう心がけたいもの、皆様の素晴らしいアイデアを、理事会で集積して、次回ビアパーティでの発表を期待します。

インカレ観戦記

（Ｓ40年卒）川上　浩子

神戸夙川沿いの道を海に向かって歩きながら妙に緊張していました。こんな風に暑い中試合会場に向かった三十余年前の記憶が甦り、ああこれが私の青春だったのだと、遠い夏の日がなつかしく胸に込上げるものがありました。しかし現実にはテニスコートを離れて久しいので、我後輩を見つけるのも容易ではありません。ようやくシングルスの稲垣さんのコートに辿り着いて、さてどちらかわからず係員に「立大はどちらですか」と聞く始末。サッカーのようにユニホームではっきり分かればよいのにと思ったりもしました。稲垣さんは、一年生らしく思い切りがよくて楽しみな将来性を感じました。午後からのダブルスは三組がほぼ同時に始まり、場慣れしていない私は、あっちへ行ったりこっちを観たり右往左往しました。そしてうろうろしているうちに畠中・岩本組の試合はあっという間に終わってしまったのです。勿論勝って、逆に云えば、短時間で済む程彼女達が強いということなのですが。畠中組は今日の女子部の繁栄の基礎を造ってくれた方達なので、是非観て応援したかったのにすごく残念でした。ダブルスのペアーの一回一回、手と手を合わせるスキンシップが印象的でした。手が痛くならないかしらと心配になるのは老婆心でしょうか。けれどもこんなにも多くの選手がインカレに出場するなんて我々の時代と比べて隔世の感あり、夢のようです。なんとも後輩達が誇らしく夕方浜風が吹きだす中、立ち去り難い気分でした。ただチョット残念に思うのは男子選手の姿が見えないことです。かつての男子部の栄光を懐うとき、共存共栄を願わずにはいられません。当然のことながら帰途、三の宮で飲んだビールの味は格別でした。

現役諸君へ

（Ｓ42年卒）原田　正明

卒業して三十年たちましたが、会社内に、テニスコートがあり、近くに住んでいるという環境に恵まれ、相変わらず休日にはテニスを楽しんでいます。また県や市の協会の役員をしているという立場上、大会やテニス教室の手伝いなど、テニスにたずさわっていることが多く、ストレスも余りためる事もなく、元気でいられます。テニスをすることにより、子供から年配の人まで、年令に関係なく、たくさんの人と接することができ、良き友人、知人を得られた事が、何よりも良かったと思っています。これも学生時代テニスをしていたおかげだと思っています。

現在、男子は４部、女子は一部という位置ですが、昔と違って年令の低いジュニアから、テニスをしている人が多く、遅く始めた人には、最初はレベル差があり、ハンデイになりますが、時がたてば、年々差は縮まってくると思います。

私の会社に、Ｈ君という学生時代は、強くなかった選手がいます。今は、埼玉県の国体選手で、全日本にも出場したことがあるのですが、本人は、テニスの技術は、まだまだで自分の特徴は、足であると、認識しているのか、仕事が終ってから、ボクシングジムへ行って、フットワークの練習をしたりしているようです。自主的な努力が何かのきっかけで強くなるような気がします。監督やコーチから、いろいろ教わり、レベルアップを目指して頑張って欲しいと思います。私も微力ですが、強化本部長として、バックアップをしてまいりたいと思います。

豊かに生きる

（Ｓ43年卒）大倉　田鶴子

テニス部女子が一部に昇格したという、現役の方の素晴らしい活躍のニュースが伝わっている。私達の時代には考えられなかった一大快挙で、後輩の大活躍に何とも腰の落ち着かない気分さえする。と同時に遠い昔の現役時代の事が次々とよみがえって来た。しかし、真先に浮かんだのは、練習でも試合でもなく、それ以前のコート整備の光景だった。練習前後のコートのローラーがけ。石灰液とはけを使ったライン引き。冬には霜よけの為にコートにむしろを敷いた。初めての夏合宿では期間中、雨がしょっちゅう降り、その度に雑布で水を吸いとり、砂をまき、そしてローラーをかけた。

いつの間にか学校も民間のテニスクラブもハードコートが主流となり、インドアの設備さえ出来て、いつでもすぐテニスが出来るようになった。しかし、ハードコートは年令を重ねてくると体にもハードな影響を与え、クレーのやさしさがなつかしい。コンクリートに囲まれた生活で、土の感触にふれた心地良さと同じだ。又、手間をかけたコート自体への愛着や大切に扱う心が身についた。

利便性や効率・能率重視の社会だからこそあえて手間や時間をかけ、それを楽しむゆとりがほしい。ウィンブルドンを例えるまでもないが、時には不便な生活を体験し、捨て去ってきたものの中から楽しみや喜びさえ見つけられたらと思う。

又、物事をやる以上は向上を目指すのは当然だが、全力投球でやり通すこと自体にも大きな意義がある。それは可能性への挑戦など肯定的、積極的価値観の体得の場ともなり、又、共にやり遂げた仲間一人一人が財産となる。そしてメンバーの力の結果となってあらわれる。

家庭、学校、職場、地域どんな社会でも、互いの存在価値を認め合い、それぞれが生きる喜びを感じあえる人間関係を作ることが豊かに生きるということにつながる。

共にやり遂げた〝仲間・財産〟が増えることを切に願っている。

テニス部と私

（Ｓ53卒）山下　哲夫

先日、一年下の原田君から依頼があり、テニス部会報に何か書けと言う事でありました。

私も中高大と十年間テニス部にお世話になり、あまりにも色々な事がありまして何から書いてよいかよくわかりません。そこで今回は、現監督の鷲田君について少し書かせていただきます。

～第一章～　中学入門編

―監督をスカウトした私―

鷲田君とは中学の入学式で席が近くになり、野性的な彼と知性的な雰囲気の私は、お互い自分にないものを求める様にすぐに友達になりました。入学後しばらくすると各クラブの勧誘が始まり、私は故鈴木明先輩の勧めもありテニス部に入部したいと思い、どうせやるならと鷲田君にも「一緒にどうだ。」と誘いをかけたのであります。当時すでに、知力・体力・暴力の三部門で学年制覇を成し遂げつつあった鷲田君は、野球部のＡ君、サッカー部のＩ君等に非常なライバル意識を持っていたと思われ、「それなら俺はテニス部で。」という気持ちからか私の誘いにすぐに乗ったのであります。がしかし来る日も来る日もボールボーイと素振りの日々、そしてたまにボールを打たせてもらえば大ホームランの鷲田君は、一学期分の部費だけ払い、ローラーを引いている私達の横のグランドでサッカーの武者修業を始めてしまったのです。彼の素質を見抜いていた私は、夏の合宿まで頑張る様に説得し、彼も合宿が終り二学期には、三十数名をごぼう抜きして一年生のNo.1になっていました。今思えば戦績では十年間通算で負け越しの私ですが、鷲田君にテニスを勧めた事で少しは立教のお役に立てたのかなと言うところでしょうか。以上拙文で大変申し訳ありません。二度と原稿の依頼はないと思いますが、チャンスがあれば、第二章高校激闘編、第三章大学惨敗編も書いてみたいと思います。又今後は監督の同期としてＯＢ会の活動にも出来るだけ努力をしてまいりたいと考えております。

「こだわり」

（S63年卒）高山　和則

ふと自分の現役時代を振り返ってみた。現役の選手達がどう感じるかは各人に任せるとして、私の思い込みを披露しよう。現役時代、諸先輩からテニスコートは勿論のこと飲み屋などで数多くのアドバイスを頂いた。当然、体育会に属する選手である以上「勝つこと」が大前提になるのだが、私なりに少々こだわりを持っていた。それは、

・いかにかっこよく！
・いかに楽しく！
・いかに楽（らく）して！

勝つかであった。もちろん負けることも多々あったので全てに当てはまる訳ではないのだが・・。又、高山が馬鹿なことを言っているとおっしゃられる方々も多いかと思うが、社会人になって十年余りが経つ昨今「好きなことにこだわりを持てた。」ということが非常に役立っている。好きなことをするのは誰でもできるが、する以上「自分なりのこだわり」を頭を使って考えることが重要なことである（現役選手も当然考えていると思うが考えることに限界はないと思う。もし、限界にぶつかったら我々と一緒に飲みに行こう。少しヒントがめばえるかも……）結局、最後は「飲みに行こう」という私本来の言葉になってしまったが、できる限り現役がこだわりを持ってテニスができるよう微力ながら係わりを続けていければと思う。そのようにできた現役時代をささえてくれたＯＢ諸氏への感謝と恩返しの為に！。そしてセントポールテニスクラブの勝利の為に！

「一部昇格によせて」

（Ｈ8年卒）鈴木　麻衣

現役の皆様、一部昇格おめでとうございます。数ある大学の中で僅か六校しか掴む事の出来ない栄誉を手にされ、私もＯＧとして後輩を誇らしく思います。

この度、弱輩者ではありますが現役に近い立場のＯＧという事で寄稿させて頂きます。

『上級生から下級生までのベクトル合わせ』

『身近なライバルの存在』

更なる飛躍を目指すこの一年部員の技術力及び精神力を底上げしていく為に、私は以上二点が重要だと思います。まず一点目についてですが、常に各練習メニューに入る前にその意図するものを理解した上で臨む姿勢です。ともすれば下級生の中には練習に流されてしまいボールを追うだけの状態に陥るかと思われます。大学テニス界において高校までのプレーはある程度までしか通用しないでしょう。上位を狙うならば普段からクレバーな意識を持って練習して頂きたいと切に思います。

次に部内で自分より少し上のレベル者をライバルとして持つ事が大切だと考えます。自分の在学中からＯＧとなった現在までの庭球部を見てきて、〝チーム一丸となって〟が先行してしまい、〝個々人間の争い〟に欠けていた感があります（自己反省です）。勝負の明暗を分けるのはやはり負けたくないという気持ちの強さですよね。以上思うがままを述べさせて頂きましたが一部という最高の舞台で戦える皆さんをうらやましく思いながら、心から応援します。テニスと仕事、戦うフィールドは違いますが立教の名にかけて、お互い頑張りましょう。

「立教テニス」

（Ｈ10年卒）村木　祐介

毎年恒例行事になっている立教合同練習会。私がテニス中心の人生になったのは、中学校1年の時にこの会に参加したことがきっかけであった。その時立教中学校のテニスコートで見た当時の大学生の姿に、純粋に憧れ、そして自分もここまでなりたいとの思いだけでテニスを続けようと決心した。私はその思いから、自分が学生時代は立教中学校の夏合宿には毎年参加し、指導を行ってきた。一人でも良いから当時の自分のような中学生が出てきてくれればとの願いが常に頭の中にあった。そして、立教中学の全国大会優勝、立教高校の全国選抜団体ベスト8のニュースを聞いたとき、自分が勝ったかのように嬉しかった。

私はこんな気持ちをいつまでも持ちつづけたいと思っている。

こんな私が引退してもコートに足を運ぶ理由はテニスが好きだからである。強くなって欲しいとの気持ちだけではなく、テニスを通じて何か自分の礎となるものを掴み取ってもらいたいからである。私自身、戦績として残った結果以上のものが自分の中に残っている。形としてではなく心の中で自分を支えてくれているのだ。現役時代は当然悩み、苦しんだこともあったが、必ず自分を支える何かを掴み取れると信じ努力してきた。現役学生にも、その気持ちを持ってもらいたいのだ。大学生は高校生に、高校生は中学生に教えていってあげて欲しい。そして、自分を信じてがむしゃらに努力して欲しい。きっとそこには机の上や参考書では学べない何かが待っているはずだから。

今回のリーグは自分が負けたかのように悔しかった。現役時代と同じように涙した。私はこんな気持ちをいつまでも持ちつづけたいと思っている。来年こそ、嬉し涙を流そう。

中学・高校通信

庭球部通信欄

〈顧問〉部　長　重原　康秀
副部長　西村　博文
原　真也

〈部員数〉

一年21名　二年23名　三年31名

〈最近の部員数の傾向〉

一時のテニスブームは既に過去のものではあるが、テニスが社会に定着し、また部の実績によってか毎年入部希望者が多い。練習場所と指導者の数により全員を受け入れられないのが残念。

〈最近の戦績〉

一九九六年度
都団体戦　第三位
関東団体戦　二回戦進出
都新人団体戦　準優勝
関東新人団体戦出場

一九九七年度
都団体戦　準優勝
関東団体戦　準優勝
全国団体戦　優勝
都新人団体戦　準優勝
関東新人団体戦　優勝

一九九八年度
都団体戦　第五位
関東団体戦出場
都新人団体戦　優勝

〈部長より〉

テニスが社会に定着し、各地のジュニアスクールが技術の優れた選手を生み出し、学校大会の個人戦ではそういった選手の活躍が目立つ。個人的な技術指導ではどうしてもスクールに遅れをとってしまうが、学校テニスならではの、チームワークの中で培う人間形成と、チーム全体の質を高めて挑む団体戦で勝利を手にすることを最大の目標としていきたい。

立教高校テニス部活動報告

立教高校テニス部顧問　湯川　宣雄

戦績報告

全国選抜（3月）
団体戦ベスト8

関東高校県予選（5月）
団体戦準優勝
単準優勝　米田
単3位　浜田
複準優勝　米田・浜田

インターハイ県予選（5月）
団体戦優勝
単準優勝　米田
単3位　浜田
複3位　米田・浜田

関東高校（6月）
団体戦・単・複　出場

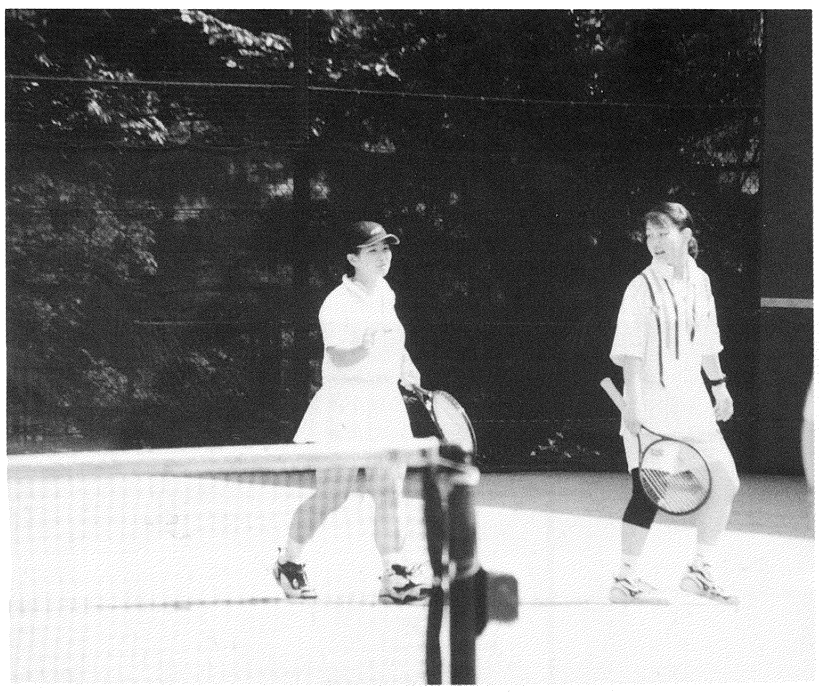
インターハイ（8月）
団体戦　5年ぶり出場
個人戦　単出場

全日本ジュニア（8月）
複準優勝　米田・（宮尾）
単出場　浜田

国民体育大会（10月）
埼玉県選手として出場　米田

新人戦県大会（10月）
団体戦第3位
単過去最高の出場本数10を数えたがベスト16が最高と振わず。
複出場本数8本のうち
準優勝　須江・須江

以上98年度の主な大会の記録です。現在3年生13名2年生20名1年生40名計73名の大所帯で活動しています。



平成１０年度年会費
ありがとうございました

(平成１０年１１月２５日現在)

卒年　OB ご氏名　(敬称略)

２３　清　隆彦
２５　五味淳芳　山元　実
２６　迫　哲夫
２７　岸本俊二　橋本幸信　一條正志
２８　小倉　宏
２９　森崎貞夫
３０　向井昌男
３１　森　恵
３２　永山勝三　辻本正司　宮岸　武　鈴木有恒
３３　飯島一雄　川上　岳　藤林勇雄　矢部治道
３４　瓦林聖児　小田原正直　井田悦夫　丸山悌夫
　　青山　毅　井上隆二　飯郷七朗　副島光彦
３５　仲井一浩
３６　福島淳介　柘植銑次　山中博司　那須和久
３７　小西一三　鎗田秀雄　安部直之　河野貞夫
　　栗田進伍
３８　倉光　純　合瀬武久　西山憲一　近藤紘二
　　田口雅一　西宇明男　橋本　宏　下村直史
　　松波幹忠　広瀬　武
３９　高橋道男　伊藤正信　玉置秀雄　石黒　潔
　　唐澤靖治
４０　井上詔夫　田口荘治　町田昭雄　平井克忠
　　末藤朋昭　広瀬省蔵
４１　木口久仁彦　川口隆史
４２　豊田資朗　倉光　哲　濱野公哉　出口誠之
　　原田正明　昇　文彦　小宮山亮次
４３　沢松忠幸　若杉正明　大石正光　佐藤俊彦
　　有馬八郎　三浦允行
４４　占野靖宗　富田次郎　志田充顕　須田健治
４５　五十嵐哲男　宇野　治　上野城太郎
４６　笠原賢次郎　日高啓吾　宮下好人　安田清志
４７　安達幸男　加藤雄一　富田　均　若井新司
４８　清水春海　内原康雄
４９　浅見　豊　今井広幸　鈴木徹雄　武藤憲二
　　八木澤恭司
５０　大里有二　立野公一　梅田憲司　井畑　清
　　中島幸彦
５１　鈴木一広　佐藤信夫
５２　石上富一　鈴木　宏
５３　鷲田典之　山下哲夫　井筒浩平　高橋良隆
　　河野茂男
５４　角野俊平　原田　豊　加倉井　理　澗田雅之
　　毛利毅裕　鈴木康正　渡辺　薫　秋元英晴
　　岩立文雄　久保勝延
５５　金原　厚　大塚直人　松村隆司
５６　竹石敬之　谷口秀治　岸本　誠
５７　伊藤久幸　高橋宏幸　坂井邦夫　平山　元
　　田鍋文啓
５８　井上勇人　上杉信久　旗　栄一郎　庄野俊夫
　　染谷孝幸　大井洋隆　竹下喜六　田淵浩史
５９　藤井孝信　阿部弘行
６０　藤原誠之　笠原康司　横山　浩　江川裕雅
　　川野隆郎　田坂文禎　沢井清隆　高橋守種
６１　大岡史直　石川　順　佐藤昭一　山田彰彦
６２　柴原公博　辻野広行　牛込耕二
６３　高山和則　上杉　佐　新谷守夫　鹿浜哲也
　　最賀智正　清隆一郎
平１　青山貴志
　２　山田　昇　東樹秀明　昆野　敦　小島敏正
　　木村達彦　篠崎享史　田中周作　渡辺正和
　　白寄誠爾
　３　柳内　崇　戸田雅道　丹治　均
　４　増田哲也　中尾正芳
　５　金子　誠　深沢伯亮　保泉　敦　片岡　聡
　６　相見典祐　後藤　孝　二塚圭介
　７　宮本匡彦　太田　治　酒本大輔
　８　河村貴史　保戸塚哲也　松本俊一郎　山崎雄一郎
　９　阿部　宏　神藤浩史　久々湊仁彦
１０　岡　利之　吉崎太二　里和勇人　大熊隆史
　　村木祐介　粂田博史

卒年　OG ご氏名　(敬称略)

３６　八木下紗絵子　野田昌子　木暮和枝
３７　森　聿子
３８　松平紀代
４０　深草宣子　川上浩子　菅原弘子
４１　松田弓子
４２　杉澤小百合
４３　片山康子　吉川加代子　阿部喜子　林田千史
４４　星谷久美
４５　長濱町子　倉科鈴恵　木本美代子　古庄篤子
４７　伊藤美枝子
５０　飯塚圭子
５１　平綿千恵子
５２　吉川裕子
５３　吉原典子　福田佐智子　高橋久美　山下実果
　　前山真理
５４　山田優子　戸松まさみ　村田由子　堤　千賀子
５５　杉沢　薫　福嶋由起　ダン千里　山下節子
　　黒坂美也子
５７　大久保直子　厚美　緑　坂井裕美　樺沢恵美子
５９　篁　典子　後藤悦子　山下真佐子　池田由紀子
６０　岡原佐和子　藤原亜美　服部敦子　増沢真弓
　　永田良子
６２　内山麻里　増村真理子
６３　石島裕子　平田　恵
平１　加藤尚子　岡崎美穂　平島優子
　３　金丸聡子　田島美穂　島田千代　近藤和子
　　竹山澄子
　４　坂倉祐子
　５　浅場恵美　中山洋美
　６　吉川明見
　８　鈴木麻衣　笹川友紀　横田陽子
１０　吉田　涼

お詫び
昨年度の当欄に、若杉正明氏(43 卒)のお名前が漏れておりました。
ここにお詫びするとともに、訂正させていただきます。

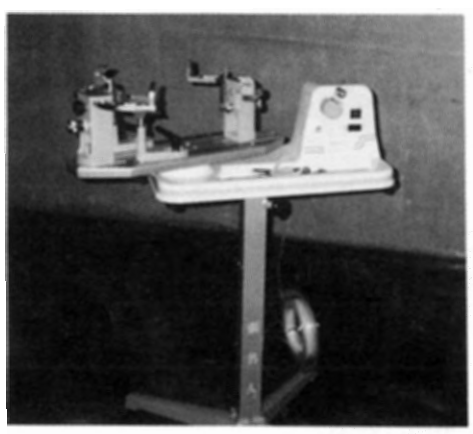
訃報

笠原優禎氏
（昭和二十五年卒）
平成九年十一月十九日

鈴木　明氏
（昭和四十九年卒）
平成十年五月十日

八木沢恭司氏
（昭和四十九年卒）
平成十年八月二十六日

故八木沢恭司氏のご葬儀には、荒天にもかかわらず一〇〇名を超える立教テニス関係者の皆様にご会葬いただきました。

強化委員でありました故人のご遺志を鑑み、ご遺族のご好意として現役テニス部へ電動ガット張機一台をご寄贈いただきました。

立教大学池袋キャンパス内の部室に設置し、有効利用させていただいております。